

富山県における温暖化対策について

令和2年1月22日(水)
富山県生活環境文化部環境政策課

「新とやま温暖化ストップ計画」の策定

本県の温室効果ガス排出対策（緩和策）及び気候変動適応策を総合的、計画的に推進するため、**2019年8月に計画を策定**。

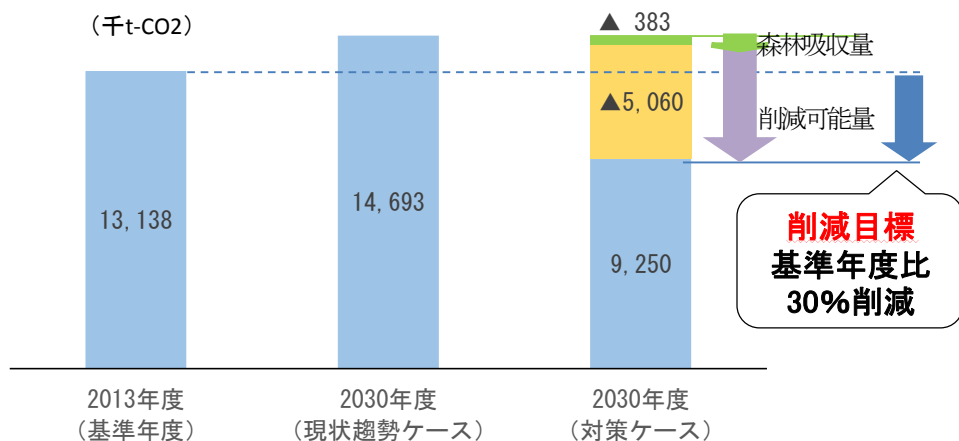
パリ協定の締結・発効、国における地球温暖化対策計画の策定（2016年5月）、気候変動適応法の公布（2018年6月）等国内外の動向を踏まえ、「とやま温暖化ストップ計画」（2004.3策定、2015.3改定）を見直し

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく県の実行計画（区域施策編）、「気候変動適応法」に基づく地域気候変動適応計画として位置付け。

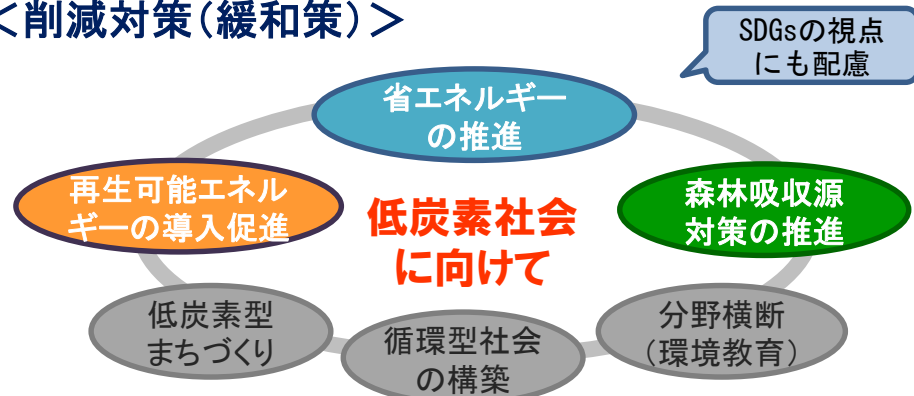
【計画の概要】

- 対象地域 富山県全域
- 対象物質 二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類
- 削減目標 **2030年度に2013年度（基準年度）比 30% 減**

※ 2020年度時点では、2005年度比 8% 減



＜削減対策（緩和策）＞



＜適応策＞

避けられない地球温暖化の影響による被害を防止・軽減するため、7分野において適応策を推進





SDGs未来都市を目指すに至った背景とこれまでの取り組み

水と緑に恵まれた豊かな自然環境

○標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで、
高低差4,000mのダイナミックな地形

○**植生自然比率本州一**の水と緑に恵まれた豊かな自然環境



富山湾(水深1,000m)越しの
立山連峰(3,000m級)



植生自然比率本州一

土石流や洪水、公害とのたたかい

○多くの急流河川で土石流や洪水などが頻発

…明治時代から続く**砂防・治水工事**

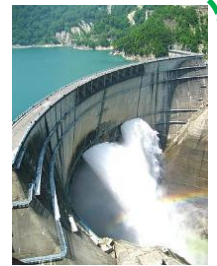
→治水工事に併せて**水力発電**を古くから導入

…戦後の産業振興の基礎に

○官民が連携して**イタイイタイ病**を克服してきた歴史

(汚染農地の復元、流域住民の健康調査)

→県民一人ひとりの高い「**環境意識**」の醸成



黒部ダム(1963年)

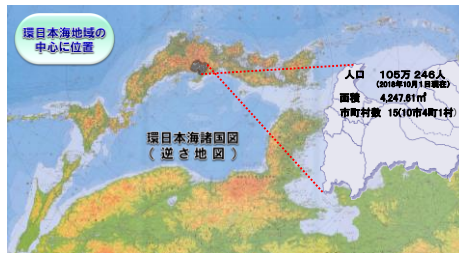


イタイイタイ病資料館の設置(2012年)

環日本海の中央に位置する地理的条件

○対岸諸国との交流の積み重ねを活かし、

環日本海・アジア交流の拠点として活発な取り組みを展開



環日本海諸国図
(逆さ地図)



北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)
地域調整部
(日本海側初の国連機関(2004年～))

全国に先駆けた環境施策の推進

- ・農業用水等を活用した小水力発電の整備
- ・県民参加の森づくりの推進 (水と緑の森づくり税の導入(2007年4月～))
水と緑の森づくり税の活用、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽
- ・全国初の県単位の**レジ袋無料配布の廃止**
マイバッグ持参率 95% (全国1位、2017年)
- ・富山型リサイクルの推進 (2010年10月～)
小型家電を市町村が拠点回収し、民間事業者がリサイクル
- ・とやまエコ・ストア制度の創設
レジ袋無料配布廃止に加え資源回収や弱冷暖房等の取組を県民と協働で実施

- ・**G7富山環境大臣会合(2016年)** 富山物質循環フレームワークの採択
- ・「**世界で最も美しい湾クラブ**」世界総会(2019年10月)の開催

今後の本県が目指す「SDGs未来都市」の姿

～本県発展の原点である「**水**」に焦点を当てたSDGs未来都市等提案～

2030年においても「**美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県**」

「SDGs 未来都市」に選定（2019年7月1日）

全国60都市<7道県>

- ◆全国初(2008)となる県単位でのレジ袋無料配布の廃止や
使用済み家電等のリサイクル、とやまエコ・ストア制度の創設など
SDGsの理念を先取りした環境施策の取組みが評価

- ◆G7富山環境大臣会合(2016)では「富山物質循環フレームワーク」が採択
→1人当たり食品ロス発生量の半減(2030)を目指す→県単位で
は全国初の商慣習の見直しを宣言→具体的な取組みを開始

2019.3



2019年度SDGs未来都市
選定証授与式
(2019.7.1 総理大臣官邸)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



※持続可能な開発目標=17分野のゴール

『山と森から富山湾へ 清らかな水の循環の創造』

経済



環境



社会

- 「立山黒部の世界ブランド化」や「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会の開催など美しい山と海を活かした観光振興…⑧⑨

- サスティナブル・シーフードと「富山のさかな」のブランド化の推進…⑧⑨

- 小水力発電、地熱発電等の導入や水素など新たなエネルギーの利活用…⑦⑨

- 豊かで美しい自然環境や生態系の保全…⑮
- 県民参加による水と緑の森づくり…⑭⑮
(富山県森づくり条例の制定(2006))
- 清らかな水資源の保全と活用…⑥
- 環日本海・アジア地域における環境保全の取組みを推進…⑥⑭
- 立山砂防の事業促進と世界文化遺産への登録推進…⑪⑬

- プラスチック、発泡スチロールの発生抑制・回収・処理や環境教育による循環型社会・低炭素社会づくりの推進…⑫⑰
- 「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立…⑫⑰
- 環日本海・アジア地域の資源効率性、3Rの推進に向けた国際貢献…⑫⑰

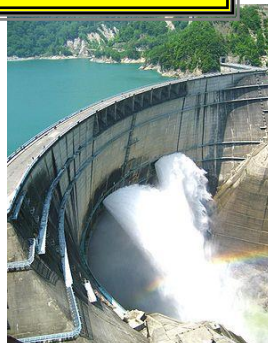
再生可能エネルギーの導入推進

再生可能エネルギー先進県

立山連峰を水源とする豊かで急流な河川を利用した電源開発を推進

・水力発電電力量 101億kWh(2017年度)
全国第1位

・県内における水力発電電力量は
発電電力量の**約7割**に相当



黒部ダム

○「富山県再生可能エネルギービジョン」の見直し(2017.2)

再生可能エネルギー等推進会議を開催し、従前のビジョンを改定

○新総合計画「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦」を策定(2018.3)

○「新とやま温暖化ストップ計画」の策定(2019.8)

➡ 本県の地域特性を活かし、再生可能エネルギーの導入を官民一体で推進

太陽光

住宅用太陽光発電やメガソーラーなど

2021年度目標(再エネビジョン)
2012年度比 **太陽光発電容量3倍以上**



富山新港太陽光発電所
(県企業局)

➡ **約6.7倍の発電容量の設備導入**
(2019年3月)

小水力

運転中の

小水力発電所 **48か所**(2019年8月)
(2008年度12か所から36か所増)

※固定価格買取制度による発電 37か所の
発電設備容量 11,456 kW (2019年3月)
全国第1位

2026年度目標(新総合計画)
小水力発電所**60箇所以上**

事業主体別運転箇所数

県・企業局10、土地改良区20、
電力会社7、市町村・広域圏組合7、
民間事業4 **合計48**



落差を有する農業用水路
(滑川市杉本地内)

地熱

地熱資源開発調査事業

深さ1600mの調査井を掘削し、取り出した蒸気・熱水の温度・流量等から開発可能な発電出力を推計

立山温泉地域において、調査井掘削等を実施(2018~2019年度)
(2017年度ヒートホール掘削調査等を実施)

バイオマス

未利用間伐材などのバイオマスを活用

木質バイオマス発電所(射水市内)
(2015年5月23日稼動 発電出力5,750kW)

2021年度目標
木質バイオマス利用計画量 **4万トン/年**



木質バイオマス発電施設

県産材 2017年度実績:**2.7万トン**、2018年度実績:**3.0万トン**
(ドラム缶**5万本**の石油削減に相当)

レジ袋の無料配布廃止の経緯と取組みの成果

●レジ袋無料配布廃止の経緯

取組み
開始以前

消費者団体

マイバッグ推進運動

事業者

声かけ、還元 等

行政

容器包装リサイクル法

各主体がそれぞれの立場でレジ袋の削減を推進
⇒ **効果低迷、運動伸び悩み**
(マイバッグ持参率:10~20%)

消費者団体

事業者の後押し

事業者

レジ袋無料配布廃止

行政

普及啓発・連絡調整

各主体が連携協力して、効果の高い取組みを検討
→ レジ袋削減推進協議会を設立し(2007年6月)、協議
⇒ **県下全域で無料配布廃止へ**



●レジ袋の無料配布廃止の取組みと成果

県単位では**全国初**の取組み

- 2008. 4. 1 (取組開始時) 28社208店舗
- 2019. 9. 2 52社508店舗



マイバッグ持参率

全国トップ

95% (2018年)

(2008年:92%,2009~2012年:94%,
2013~2017年:95%)

※無料配布廃止店舗でのマイバッグ持参率

●取組みの輪の拡大 : **全国23県に取組み拡大**

→ 来年7月から

全国の小売店で有料化義務付け

それ以外の業種についても同様に推奨

取組効果 (2008~2018年⇒11年間)

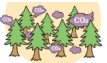
レジ袋削減枚数 : **15億7千万枚**

積み上げると
立山43個分
の高さ

◇ 石油の削減量 : ドラム缶 **約140,000本**

◇ CO₂の削減量 : **約96,000トン**

杉の木約690万本の
CO₂吸収量に相当



県民意識の向上

レジ袋削減の取組みをきっかけに

今後、環境にやさしい行動に取り組もうと思う県民の割合
74% (2008年5月) ▶ **87%** (2015年2月)

とやまエコ・ストア制度の概要

県下全域でのレジ袋無料配布廃止の取組開始から5年後(2013年)、レジ袋無料配布廃止からステップアップし、エコライフの定着・拡大を図るため、**県民と協働で環境配慮行動に取り組む店舗を登録する「とやまエコ・ストア制度」を創設**

【登録店舗数】

2013. 10. 20(開始時) 53社511店舗

2019. 9. 2 **72社1,086店舗・6商店街**

事業者の取組み “どんなお店が対象なの？”

次の①～③のうちの1項目以上 + 自由項目
に取り組むお店を『エコ・ストア』として登録

① レジ袋無料配布廃止

② 資源物の店頭回収

・店舗ごとに、食品トレイ、PET、古本、衣服 等

③ 適正な店舗温度設定 + 業種ごとの取組み

・食品ロス・食品廃棄物対策、詰替え商品の取扱い
地産地消の推進、省エネ商品の説明 等

自由項目

照明のLED化、地域の清掃活動 等
(店舗独自の取組みを自由に設定)

県民の取組み “私たちは、どんなエコができるの？”

エコライフの定着・拡大に向け、エコ・ストアへの協力・支援

① マイバッグを持参してお買い物を楽しもう！

- ・お買い物時はマイバッグはたためましょう
- ・お店のカゴは、所定の場所に返却しましょう



② 店舗への資源物の持ち込みに協力しよう！

- ・トレイ等は洗浄し、水切りしてから持ち込みましょう
- ・電池、古本等は分別して回収ボックスへ入れましょう



③ お店のエコな取組みを理解し、協力しよう！

- ・店内が多少暑く/寒くても理解しましょう
- ・県産食材、詰替え商品、省エネ製品をできるだけ選びましょう



エコ・ストアへの協力・支援をきっかけに、
エコライフの実践を“あたりまえ”にしよう

いつでも、どこでもマイバッグ運動

「いつでも、どこでもマイバッグ運動①」

30年度はレジ袋無料配布廃止から10周年

マイバッグ所持の定着やコンビニエンスストア等でもマイバッグの利用促進を図る

マイバッグの作成・配布

かばん等に取り付けられるストラップのついた**携帯型マイバッグ**を作成し、配布



コンビニエンスストアとの連携

コンビニエンスストアの利用者を対象に**マイバッグ利用を呼びかけ**



「いつでも、どこでもマイバッグ運動②」

令和元年は、レジ袋削減15億枚達成！

男性や若者のマイバッグ所持の習慣化やちょっとした買い物での持参の促進を図る

ノーレジ袋実践ウィーク

名刺入れサイズになる**マイバッグ**を作成し、**企業の従業員**がランチ等の買い物で**マイバッグ持参を実践**



コンビニでの一層の啓発

コンビニエンスストアでのレジ袋の要否の声がけから一歩進め、**レジ周りのPOP等で啓発強化**